京都市環境審議会 第2回京の環境共生推進計画評価検討部会
議事摘録

日 時 平成23年12月19日（月） 午後3時～4時35分
場 所 職員会館かもがわ1階第1会議室
出席者 小幡部会長，板倉委員，外池氏（奥原委員代理），松本委員，村瀬委員，吉村委員
欠席者 大久保委員，徳地委員，深尾委員

内 容

1 開会

2 議題

○平成23年度第1回京の環境共生推進計画評価検討部会の内容の整理

・事務局から資料1について説明。

（松本委員）「フロン類を管理，指導することは難しい。」，この通りだと思う。東京都レベルでも排出量を按分で算出しており，実際にカウントするのは難しい。

啓蒙・啓発は市民にとって最も身近な市町村で対応すべき。啓蒙・啓発における市町村の役割は大きい。

あとは，グリーン購入。完全な脱フロン・ノンフロンの製品も増えており，京都市の地下鉄の駅にはノンフロンの自販機があるが市民は気づいていないのではないか。国は二酸化炭素冷媒のスーパーのショーケースを推している。大手コンビニエンスストアなどもこれから導入するようだが，こういったノンフロンの製品が市場に出るためには，今が押し時である。

オゾン層破壊物質である CFC と代替フロン等 3 ガスを切り分けて考えることは必要である。

（小幡部会長）HFC は温室効果ガスであるということで，HFC は温暖化に寄与があることを注などで入れて，一般市民の方にわかりやすくなるようにしていただければと思う。

啓蒙はできるということで，松本委員がおっしゃった事例や，グリーン購入について，環境レポートの中でのコラム化することなどについて検討してほしい。

（小幡部会長）コンビニエンスストアやスーパーでも冷媒を変えていっているのか。

（松本委員）まだまだだが，私の知っているコンビニエンスストアでは変えていくと表明している。他都市の生協など，いくつか二酸化炭素冷媒で実際に動かしている。

しかし，まだコストが高いので，国の補助があって初めて成り立っている状況である。風力や太陽光も同じだが，もう少し大量に使われるようにならないと，今までの代替フロンとは競争できない。

（小幡部会長）風致地区の件はこれでよいか。

（吉村委員）わかりやすく説明していただいた。

（1）京の環境共生推進計画の進ちょく状況について

・事務局から資料2について説明。

- (板倉委員) 「こどもエコクラブ」は事業仕分けでなくなったのではないかと。予算はどこから出ているのか。
- (田代係員) 事業としては平成 23 年度以降は財団法人日本環境協会が引き継いでいる。
- (的場課長) 財団法人日本環境協会のホームページを見ると、最新の活動の状況が載っている。
- (板倉委員) 京エコロジーセンターの小学生の利用については、必修のときは交通費も出ていたはず。今は交通費が出ないので、よほど積極的に学校が行こうと思わない限り行けない。子どもの時の環境教育が一番大事なので、ここは削ってはいけない。
- (小幡部会長) 選択性の場合には交通費の補助はないのか。
- (松本部長) 京エコロジーセンター以外にもプログラムがある中での選択性ではないか。交通費も出ているかもしれないので、この点については確認する。
- (小幡部会長) 小学校でどういうところに行っているのか、交通費などの補助はあるのか、確認をお願いします。京エコロジーセンター来館者数が 8 万人から 6 万 8 千人に減って、減った分が別のところに行っているということであればいいと思う。
- (村瀬委員) 「取組が進んでいない項目」にごみの分別・リサイクルがあるが、これは私たち、家庭の主婦にとっては一番取り組みやすい項目である。もう少し PR が必要ではないか。
- (小幡部会長) PR はされていると思うが。
- (村瀬委員) 何でも大きい袋に入れてごみとして出している。
- (吉村委員) 段ボールや普通の紙箱などもつぶしておけば古紙回収の方は回収して、ティッシュをくれたりする。
- (小幡部会長) 紙のリサイクルは市ではやっていないのか。
- (松本部長) 他都市では古紙回収もやっているところもあるが、京都市では民間の古紙回収業が非常に多いこともあり、民間ベースでされている紙の業界にお願いしており、近頃は古紙回収業者も別に分けてくれたら持っていきますというところが出てきている。
- (村瀬委員) 燃えるごみに入れてしまうのはもったいない。雑紙は結構多い。
- (的場課長) コミュニティ回収を実施している団体に雑紙も対象であることを今年 2 月から周知をはじめている。コミュニティ回収していただくにはお知らせや、場所の確保など経費がかかるので、集めていただくことに対して京都市として補助させていただいている。
- (松本部長) 上京リサイクルステーションでは常設で古着を回収するようにした。量的にもかなり増えてきて、今まで黄色い袋に出されていたものがリユースされていくようになっていくのではないかと思う。
- (小幡部会長) コミュニティ回収は 1 団体につき、助成はどれぐらいあるのか。
- (的場課長) 前年度の環境レポートに「助成制度の紹介」ということで、「コミュニティ回収制度」について記載させていただいている。回収品目数や開始時期に応じて変わるが、最大で 1 万 5 千円までの補助となっている。
- (小幡部会長) 「コミュニティ回収制度」はよく知られているのか。
- (村瀬委員) 女性団体は知っています。地域活動の貴重な収入源になっている。
- (小幡部会長) 事業者が集めるマンションごみはどうなっているのか。
- (松本部長) 84 社が加盟している収集業者の組合とも提携して、分別していないものは回収せず、業者のほうも×印を貼ってくれるようになり、今、業者収集マンションはほとんどが白

- か透明の袋で出ている。
- (小幡部会長) 一般廃棄物の中の家庭から出るもの、事業所から出るものの集計の変化などはまだわからないか。
- (松本部長) マンションだけの数値はないが、平成 22 年度は事業系ごみ全体としては減っている。
- (小幡部会長) 全体の数値でも施策の効果を評価することはできるので数値を出してほしい。
- 「進ちよく状況のまとめ」で、現象の説明に留まっている項目と、今後の対策まで踏み込んで記述している項目が混在している。統一したほうが読みやすいのではないか。「こういうことが考えられる」程度でもかまわないので、検討していただきたい。
- (吉村委員) 市民しんぶんでエコ料理教室の記事をみた。
- (村瀬委員) 京エコロジーセンターでエコクッキングをやっている。
- (小幡部会長) 長期的目標 4 なのか、長期的目標 5 なのかということはあるが、エコクッキングや食べ切り運動なども入れて、ごみを減らすということでやっていただけたらいいかと思う。
- 一般廃棄物再生利用率は順調に増加、一般廃棄物市最終処分量は順調に減少しているが、できていないと書くべきなのか。目標が厳しいような気がする。
- (的場課長) 一般廃棄物総排出量は大幅に減っているという事実はあるが、一般廃棄物再生利用率と一般廃棄物市最終処分量は、京の環境共生推進計画では高い目標を掲げているということである。
- (松本部長) 缶・びん・ペットボトルの資源回収は順調だが、容器包装プラスチックは市の収集でもなかなか伸びていない。製品プラとの区別が難しく、法制度上の問題もあり、国に対して、製品プラ自体も回収項目にあげてほしいと要望を出している。
- (村瀬委員) 分別の仕方についての冊子が各家庭に配られているが、冊子を見るだけではわからない。実際に説明に来てもらって勉強するとよくわかる。
- (小幡部会長) 勉強会などはあるのか。
- (松本部長) 出前講座もあるし、エコまちステーションが地域に出向いて説明する。
- (村瀬委員) PTA などに出前講座をしていただき、そこからまた口コミで伝えていく。子どものほうが徹底するので、やはり、京エコロジーセンターに子ども達が行くのは必須にすべき。
- (松本部長) 小学校の 4 年生と 5 年生用、中学生用の環境副読本もある。
- (小幡部会長) そういったことも環境レポートに入れて、取組が進んだ、進んでいないといったことについては、わかるものはその原因と対策を書きいただければと思う。
- 森林保育・造林面積は「京都市特定間伐等促進計画」によって増えたということか。
- (田代係員) 「京都市特定間伐等促進計画」により、4 年間、同程度の量を整備していくことになっている。

(2) 平成 23 年度環境レポート構成案について

- ・事務局から資料 3 について説明。
- (外池氏 (奥原委員代理)) 環境レポートは何部作って、どこで配布されるのか。
- (田代係員) 平成 23 年度版は 5,000 部作成し、各区役所の配架スペース、みやこメッセなどの文化交流施設、京エコロジーセンターなどの環境関連施設、キャンパスプラザ京都などで配

- 布することを考えている。また、環境保全活動のイベントなどでも配布する予定である。
- (小幡部会長) 環境レポートを用いた勉強会などは開催しているのか。
- (田代係員) 出前トークなどでは環境レポートをテキストとして使っており、先月も京都大学で実施した。
- (松本委員) 廃棄物ではリサイクルされた量や率が大切だが、きれいなものだけでなく、集められていないもの、残ったものがどんな様相なのかといったことも必要ではないか。円グラフがあってもいい。折れ線グラフや棒グラフではイメージがつかない。
- (的場課長) 「ごみ減量・分別ハンドブック」では、クリーンセンターには手付かず食品が6分の1ぐらいあるということ、賞味期限切れなど色々な要因があると思うが、物を大切にせずに資源が捨てられているということが書かれている。
- (小幡部会長) いいイメージばかりになっているので、少し悪い要素も入れるか。入れればわかりやすいだろうということである。
- (村瀬委員) 賞味期限も良し悪しである。賞味期限が過ぎても、1・2日は食べられる。
- (小幡部会長) 賞味期限前でも捨てられている。
- (村瀬委員) 賞味期限と消費期限があり、賞味期限を過ぎても腹痛を起こすことはない。
- (吉村委員) 開封もされずに捨てられている食品が多いことに驚いた。
- (松本部長) 冷凍庫を開けたら、冷凍食品の賞味期限が過ぎていてそのままごみ袋へということが多いようである。「ごみ減量・分別ハンドブック」に、冷蔵庫に残っている食品をメモしておき、無駄な食材を購入しない、トレイ1枚を削減すると、ごみ量が5g、二酸化炭素が13g削減するとか、色々なことが書かれている。残飯による食生活の経済損失は日本全体で11.1兆円、農業水産業の総生産額が12.4兆円ということである。
- (吉村委員) 冷凍食品は安く買えるので、それが買いためしてしまう原因かもしれない。
- (小幡部会長) 温暖化対策について、照明を煌々とつけている店もあるし、そういうところを、もしこういうことがあったらどうしますかとか、こんなことしていませんかとか、それを入れるかどうかである。
- (松本部長) 環境レポート自体の性格をどうするかにもよると思う。啓発活動などを深く入れるとまた分厚くなってしまう。
- (小幡部会長) 環境レポートは年次報告ということである。細々したことは環境副読本などに入れて、環境レポートはやはり年次という性格を持たせていきたいと思う。
- (村瀬委員) あまりたくさんありすぎると何がなんだかわからなくなる。
- 今は茶葉からお茶を入れなくて、ペットボトルのお茶を買ってしまう。主婦としては、そういう金銭感覚をやめたらいいのにとと思う。
- (小幡部会長) 新規の環境関連ニュースというのはどのようなものが入ってくるのか。
- (的場課長) 今年7月に発行された「京都市市政報告書」の年表のような形で、月ごとの取組を写真を入れながら説明することを考えている。
- (松本部長) 「ご存知ですか 市の取組」で、環境副読本を3つ並べてもいいかもしれない。環境副読本はあまり知られていないようだ。
- (村瀬委員) 子どもが学校に行っていないと、環境副読本が出ていることも知らない。ごみ減量推進会議など、色々な団体で、PRしたらいいのではないか。全戸に配布するのは大変だが、

とにかく勉強しないと、口だけで言われても実施できない。

(小幡部会長) 環境副読本の大人バージョンが必要かもしれない。皆さん、知らないことが結構ある。昨年の環境レポートには「環境関連施設の紹介」が入っており、ここにこういうものがある、ここではこういうことをやっていますとかを入れている。

(松本部長) 「ごみ減量・分別ハンドブック」や「京都市の地球温暖化対策」の冊子が大人版になると思う。

(小幡部会長) 京都市が作っているハンドブックや勉強できそうな冊子があれば、環境レポートにその紹介を入れ、入手するための連絡先などを入れると、知らない人に広がる可能性もある。

(的場課長) それらの冊子の内容はホームページでも公開しているので、知っていただけるよう工夫していきたい。

(小幡部会長) 5,000部刷った環境レポートをどれだけの人が見てくれているかが大切である。

(松本部長) アンケートはどれぐらい返ってきているのか。

(田代係員) 15件である。

(村瀬委員) 関心がないのではないか。

(小幡部会長) そうとも限らない。京都市はよくがんばってやっているから、特段、意見のない方も多いのではないか。

(村瀬委員) 簡潔にわかりやすくするといっても、内容が多いからまとめるほうも大変である。

(的場課長) 環境レポートは年次報告書になるので、1年間でどういうことが行われ、その結果、どうなっているのかを分かっていたかかないといけない。しかし、たくさんのページ数となると読んでもらえない。

(小幡部会長) 基本的には PDCA ということで、そこに図や表が入って年次報告ということになっており、それはいいと思う。色々入ると、24ページをオーバーしないようにというのは大変である。

(村瀬委員) あまりたくさんあると読みにくい。

(小幡部会長) 字の大きさは平成22年度版と同じような感じか。

(田代係員) 今はそのように考えている。

(小幡部会長) 各区の取組も入っている。

今年の環境レポートは、家庭の電気使用量の削減のところに、関西電力が求めている冬の節電とかが入るか。このパンフレットのようなものが少し入るということか。

(的場課長) このパンフレット自体を入れるのではなく、市民の方々のライフスタイルの転換が必要になるということで、その取組事例の1つとして節電を入れることも考えられる。

(小幡部会長) この構成で今年度の環境レポートを作ってくださいということにさせていただく。

3 閉会